

11月の知恵袋

子ども教育実践総合センター

11月のメニュー

○11月お薦め絵本

○ちょっと耳寄りな情報

11月お薦め絵本



『どんぐりむらのぼうしやさん』なかやみわ 作 学研(2010)
先月も紹介したどんぐりむらシリーズの絵本です。家族の絆と仕事の楽しさが伝わる絵本です。

○11月の手遊び

○こんなとき、どうする？



『きょうのごはん』
加藤休ミ 作 偕成社 (2012)
美味しそうな匂いがする夕飯時、おとなりのお夕飯は何かしら？日本の楽しい食卓の風景に思わず、お腹がグ〜と鳴りそうな絵本です。食欲の秋にピッタリ！



『いろいろごはん』
山岡ひかる 作
くもん出版(2007)
こちらも食欲の秋にお勧め。ご飯の美味しさが伝わる絵本。お米の美味しい季節に感謝したくなる絵本です。



『りんごがひとつ』
ふくだすぐる 作
岩崎書店 (1996)
落ちていたりんごを巡って動物たちがさるを追いかけます。追い詰められたさるの腕の中にあっちはりんごと・・・ほのぼのする絵本です。



11月の手遊び —もも・りんご・なし・パイナップル—

作者不詳

もも・りんご・なし・パイナップル



①両手で両腿をたたく ②両手でお腹をたたく ③両手で両肩をたたく ④両手を右上・左上にあげる
台詞「うさぎさんがやってきて桃を全部食べてしまいました（ぱくぱく食べる真似）」

→2番は“もも”の歌詞を歌わずに行う

「おさるさんがやってきて…」→3番“もも”“りんご”を歌わない

「きりんさんがやってきて…」→4番“もも”“りんご”“なし”を歌わない

「たぬきさんがやってきて…」→5番全て歌わずに振りだけ

「次の年、また果物が実りました」→全部歌っておしまい♪



ちょっと耳寄りな情報



芸術の秋！ 美術館に出かけよう！

11月の中旬には、2年生の幼稚園実習も終わり、学生の皆さんもほっとしているところではないでしょうか？ 紅葉もきれいに色づき、外の出るのも気持ちのいい季節です。芸術の秋にちなんで色々な美術館を巡ってみるのはどうでしょう？

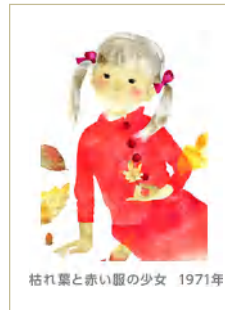
美術の王道をいく絵画展や彫刻展もいいのですが、絵本の原画を展示している美術館やテディベアを展示している美術館、みなさんの大好きなチョコレートの展覧会…。小さな画廊を巡ったり、百貨店で行われている企画展に行ってみたり…。机上の勉強ではなく、感動したり、不思議に思ったり、自分の感性を磨くゆったりとした時間を過ごすのも悪くないと思います。

気になる美術館や企画展があったら、ふらっと出かけてみませんか？

<お勧めの美術館・現在開催中の企画展>

★東京ちひろ美術館（東京都 練馬区）

水彩画で描かれたいわさきちひろの原画はすーっと心に染み渡ります。現在、<— プラハでつむぐ幻想 — 出久根育の絵本展>（2012.11.14（水）～2013.1.31（木））を開催中。



★国立東京科学博物館（東京都 上野）

<チョコレート展>（2012.11.3（土）～2013.2.24（日））

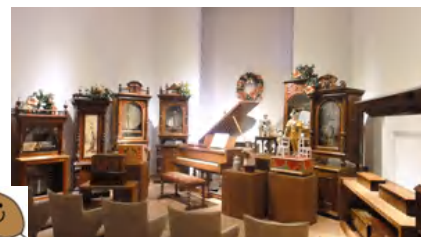
会場に入るとチョコレートでできた蒸気機関車とシロナガスクジラが圧倒的な存在感で迎えてくれます。神様の食べ物といわれたチョコレートの歴史に触れてみたら、これから食べるチョコレートの味も深まるかも。



★オルゴールの小さな博物館（東京都 文京区）

<オルゴールの小さな博物館のクリスマス企画>（2012.11.13（火）～12.15（土））

なんと2013.5.15に閉館してしまう美術館です。現在、開催中の<クリスマス企画>では、クリスマスで使われたであろう数々の実演があります。また、19世紀に活躍した大型のオルゴールで当時のキャロルの演奏があります。



【こんな時、どうする？ —子どもが言うことを聞いてくれない—】



実習に行った学生さんの苦労した話に「子どもが言うことを聞いてくれない（例えば片付けと言っても片付けないなど）」ということを知ります。2歳後半から3歳児には自我が芽生えてきて自己主張をするようになり言うことをきかない「イヤイヤ期」がやってきます。また、4、5歳児になると相手が自分に対してどのような行動を取るのかを確かめるようになります。実習生が、叱り方がわからなかったり、なんでも自分の行動を受け入れてくれる存在だと気づくと、わがままを言ってみたり、実習生の言動を確かめようとしたりすることもあります。

そんな時は、“こうしなさい”と指示するのではなく、“どっちがいい？”と子どもに答えを選ばせるようにしてみましょう。例えば片付けを「やりたくない」という場合には、「これとこれとどっちなら運べる？」など、選択できる投げかけをしてみましょう。子どもは自分で選ぶのが大好きです。また、やりたくない行動の先に楽しいことが待っているという期待を持たせ、その楽しさを共感することによって「やってよかった」という気持ちを経験させることも大切です。

特に、実習生は体をはって遊んでくれるため、時に叩いてきたり、実習生が嫌がることをわざとやったりして自分を受け入れてくれる存在か確かめていることもあります。しかし、痛いことや嫌なことは毅然とした態度で「痛いからやめなさい」と叱りましょう。そうした行動をしない時に十分に関わったり、楽しさを共有したり、抱きしめたりすることできちんと信頼関係は作られていきます。きちんと遊んできちんと叱ってくれる、そうした態度が子どもとの信頼関係を支えていくのです。

